

申請者 所属・職：健康科学部・助教

氏 名：中島 真治

論文掲載概要

論文題名	Determination of Treatment Efficacy after Revascularization of Intermittent Claudication Patients by Physical Function Assessment
論文著者	Masaharu Nakajima
掲載雑誌名	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery
掲載雑誌 IF	1.4
掲載ページ	30(1): 23-00069.
掲載雑誌 URL	https://atcs.jp/
発行年月日	2024 年 1 月 25 日
雑誌出版社	INT ACAD PUBLISHING CO LTD

論文抄読

1. 概要

末梢動脈疾患 (peripheral artery disease: 以下, PAD) 患者は身体活動 (physical activity: 以下, PA) が低下すると死亡率が上昇するため, PA の低下を防ぐことが必要である. 血行再建術後に運動療法を行うと身体機能や生活の質が改善するが, 退院後の運動療法継続率は極めて低い. そのため入院中から退院後の PA を予測することは重要である. 本研究の目的は入院中の身体機能が退院後の PA に及ぼす影響について検討した.

2. 方法

対象は Fontaine 分類 II 度に対して待機的に外科的血行再建術または血管内治療を受けた患者とした. 対象者の全例に 3 軸活動量計を装着して PA を測定した. PA は座位時間 (1.5METs 以下の時間) と定義して調査した. 入院前と退院後 1 ヶ月の座位時間を測定し, PA の増減と関連する身体機能を調査した.

3. 結果

座位時間の増減に関連する独立変数として退院時の 6 分間歩行距離が選択された. さらに座位時間の増減を従属変数, 退院時 6MWD を独立変数として ROC 曲線を描写すると, カットオフ値は 357.5m となった.

4. 結論

退院時の 6 分間歩行距離は退院 1 ヶ月後の座位時間と関連していた. このことから退院時の 6 分間歩行距離は退院後の座位時間の予測に役立つ.